国立大学法人
京都教育大学
KYOTO UNIVERSITY OF EDUCATION

体育・スポーツ指導力養成プログラム通信

第８号　2021 年度スポーツクラブ指導入門，インターンシップⅠ・Ⅱ，資格認定の報告
2022年6月30日発行

はじめに

2021年度も新型コロナ感染症の影響を受けましたが，体育・スポーツ指導力養成プログラムの中核であるスポーツクラブ指導入門は，オンラインと対面を組み合わせて進めながら，小学生が運動を行う様子を観察する内容も含めて展開し，インターンシップ（Ⅰ・Ⅱ）では京都市立藤ノ森小学校の協力を得て，2 年ぶりに子どもたちに対する指導実習を行いました．

2021 度のスポーツクラブ指導入門の受講生（図 1・上），インターンシップ参加学生（図 1・下）の内訳は右図の通りです．スポーツクラブ指導入門では 11 専攻から 44 名の学生が集まり，インターンシップⅠ・Ⅱには 12 専攻からのべ 32 名の学生が参加しました．コロナ禍であっても，「自身があまり得意でない運動・体育の指導方法を学びたい」，「将来スポーツ指導に積極的に関わるための知識を得たい」といった強い動機をもった学生が多く，様々な経験を積むことで，学生たちは多くの課題を見つけていたようです．今号では，学生たちのレポートを通じて，スポーツクラブ指導入門，インターンシップの様子を紹介するとともに，資格認定者の報告を行います．

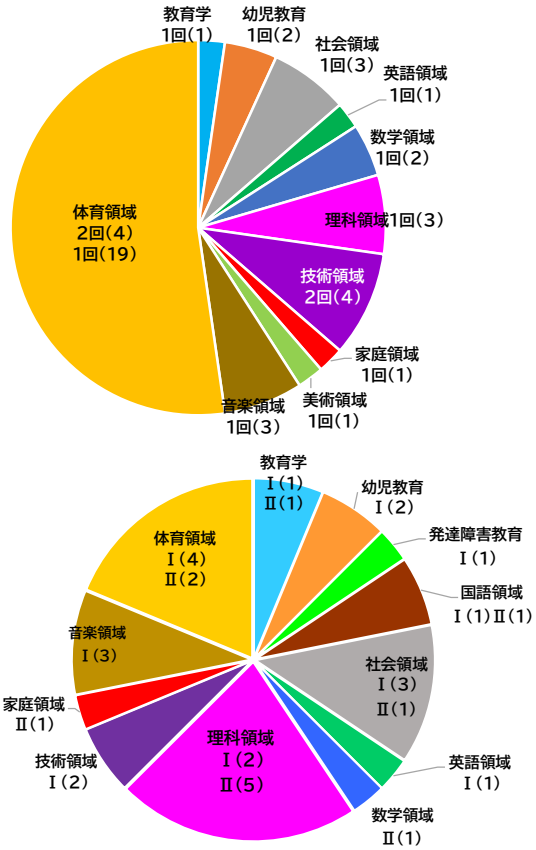

図１　2021 年度スポーツクラブ指導入門（上），インターンシップ（下）参加者の内訳（括弧内は人数）

1.　スポーツクラブ指導入門　講義①～⑤，実技①，特別プログラム（①・②），実技・指導実習①～⑥

講義①～⑤は体育学科の教員 2 名，客員教授（元京都市立小学校校長）1 名で異なるテーマに関する講義を行い，実技①では子どもたちに運動指導を行う場合の導入の活動を実践しました．特別プログラム①・②では，京都府・京都市教育委員会の先生を講師として招聘し，「今の子どもの現状」，「教員として求められる力」を大きなテーマとして，小学校現場での経験も交えて大学教員の講義とは異なる視点からの講義が展開されました．

講義①・②（オンライン授業）望ましいスポーツ指導者，コーチング，スポーツ指導者資格認定制度（担当：小山　宏之，体育学科）

講義③・④（オンライン授業）発育発達期の身体的特徴と運動指導，学校体育・運動部活動の意義（担当：小松崎　敏，体育学科）

講義⑤　6 月 30 日（水）学校現場における運動部活動の現状と課題（担当：和田　英明　客員教授）

実技①　5 月 19 日（水）スポーツ指導のための運動内容の考え方（担当：杉山　雅紀，石井　一治　客員教授）

特別プログラム①　5 月 26 日（水）いま求められる教員としての力　～学校での体育的活動を中心として～
（担当：京都府教育庁指導部保健体育課　指導主事　木村　友幸）

特別プログラム②　6 月 2 日（水）子どもたちの体力の実態等・教員として求められる力
（担当：京都市教育委員会体育健康教育室　指導主事　松村　典子）

2021 年度も，新型コロナの状況を踏まえて，学生同士でバスケットボール，陸上競技，サッカー，体操の 4 種目の実技・指導実習を行った後，受講生を 4 グループに分けて，各種目で 2 回の実技・指導実習を行いました．

実技・指導実習①（5 月 26 日，体操），実技・指導実習②（6 月 2 日，陸上），実技・指導実習③・④（6 月 9 日，バスケ・サッカー）

実技指導実習⑤・⑥（6 月 16・23 日，全種目）

最後に，今年度新たに開催した藤ノ森小学校運動教室において，小学生がスポーツ活動を行う様子を観察しました．実際に指導を行う場面はありませんでしたが，インターンシップに向けての意欲が高まっていく学生も見られました．

授業レポートより

講義では，現場に近い先生方のお話を聞く機会が多く，とても勉強になりました．私は運動経験がなく，無意識のうちに自分が運動を避けてしまうのではないか，また，自分が運動を避けることにより，子どもも運動と疎遠になってしまうのではないかと思い，この講義を取りました．しかし，講義を何度か受けて，指導に求められるものは，専門的な技術ではなく，子どもにあったスポーツのやり方を見つけることなのだと思いました．

講義の中で，「なぜ体育をするのか？」という問いに対して考える機会があり，私は身体的な成長をするためと答えました．しかし，講義の中で述べられたのは，身体的な成長だけでなく，クラスの友達との関わりやスポーツを楽しむこととあり，今まで持っていた考えが変わりました．体育の授業での雰囲気作りは，クラスの雰囲気作りと同じだという言葉も講義の中で出てきました．スポーツを通して身につけられる力をたくさん知れたので，それらを身につけさせられる指導をしていきたいと考えました．（途中省略）

スポーツクラブ指導入門を受けて，体育という教科を色んな視点から見られるようになりました．また，運動が苦手な子も得意な子もできるようになるという経験が，楽しいにつながっていることがわかりました．そのため，できるようになる工夫ができる指導者になろうと思いました．関わりの少なかったスポーツに対して，指導できるのだろうかと不安に感じていましたが，講義・実技を通してたくさんのことを学べたので，自信を持って指導できるようになったと思います．

授業レポートより

スポーツクラブ指導入門を受けて一番変化を感じたことは，苦手で嫌いであった跳び箱の苦手意識が無くなったことです．跳び箱は将来体育の授業で子どもたちに必ず教えるものの１つだったので，とても不安でした．私の実技のグループは器械体操でしたが，苦手な器械体操を少しでも克服することができ，器械体操のグループでよかったと思っています．できるまで付き合って下さった先生，本当にありがとうございました．（途中省略）

スポーツクラブ指導入門を受けたことは，自分自身の苦手と向き合う良い機会であったと感じます．私は体育が嫌いで，苦手で，このままでは子どもたちに体育の楽しさを伝えることができないと考え，この授業を受講しました．実技の時間にはできる人ばかりに囲まれ，苦手を克服することなど絶対にできないと思っていましたが，一緒に練習してくれた友達やできるまで付き合って下さった先生，子どもたちの体育やスポーツに対する姿勢を目の前で見ることができたことなどから，指導者のあり方について考えさせられ，スポーツをすることで生まれるコミュニケーションを実感することができました．この授業を受講して気づいたたくさんの事を忘れずに，自身も楽しみながらスポーツや体育の授業と向き合っていきたいです．

授業レポートより

第 1 講目の講義を受けて，体育領域や運動が好きな人のための講義だと感じ，自分にはあっていないため受講をやめようと思いましたが，終わってみて最後まで頑張って良かったと感じました．できないことへの劣等感や恥ずかしさ，体育への恐怖感はあったものの，分からないことやできないことを聞いてみたり，講師の方々が教えてくれたりして乗り越えることができました．できないと思い込んでいることや，自分の中でブレーキをかけていた部分もありましたが，体育はできないことを恥じる場所ではないと思ってから，少しずつ慣れていきました．体育が苦手な児童の中でも，それぞれ苦手な要因が異なっていて，一概に運動神経だけが原因であるとも言えないですし，簡単に克服することはできないと思います．しかし，体育という授業を通して少しでも体を動かすことの楽しさや達成感を感じてもらい，恥ずかしさや恐怖心を克服してほしいと思いました．そして，恥ずかしさや恐怖心を知っている自分だからこそ，そのような児童に寄り添った授業ができると思います．このスポーツクラブ指導入門を通して得た経験値を活かしていきたいと感じました．

2.　インターンシップⅠ・Ⅱでの学び

2021 年度は，新型コロナ感染症の影響によりインターンシップの実習先である KYO2 クラブの活動が 2020 年度に続き中止となりました．そのため，新たなインターンシップの形として大学近隣の京都市立藤ノ森小学校に協力を依頼し，同小学校の児童約 30 名を対象にして，4種目（バスケットボール，体操，陸上，サッカー）をオムニバスで行う運動教室を開催し（表 1），2 年ぶりにインターンシップを行うことができました．Ⅰ・Ⅱでのべ 32 名の学生が集まり，充実した運動指導の実習を行いました．

表1　京都市立藤ノ森小学校対象の小学生運動教室の実施状況

	種目	日程	回数（回）
前期	バスケットボール	7/28～8/11	3
	体操	6/23～7/21	5
後期	陸上競技	10/7～11/11	4
	サッカー	11/18～12/16	5

授業レポートより

まだまだ，教員として足りていないことだらけですが，間違いなくインターンシップⅠ・Ⅱを受ける前よりもできることは増えました．特に，子どもに話を聞いてもらうためにどうしたらいいかということや，練習メニューや指導を考えるために子どものどんなところを見たらいいのかということを知ることができました．

一番心に残っていることは，子ども達から求められたことです．インターンシップⅠでもⅡでも，最後の体操教室や陸上教室で次のバスケ，サッカーでも先生が来るのかを聞かれたり，教室の始まる前の時間に自分のところに来て，先生やろ～！と言ってくれるのがとても嬉しかったです．また，子どもが，それまでできなかったことができたときの顔というのはとてもすてきで，中主免ですが，小学校もいいな･･･と悩む原因になりました．もちろん，学校の中の小学生とは違いますが，それでも実際に子どもと交流することで，子どものもつ可能性の大きさや，難しさを肌で感じることができ，他の講義で学んだことをより実践に落とし込んで考えることができるようになりました．

授業レポートより

大学の授業の中で指導案を作成する際に，「児童の反応」をより鮮明に書くことができるようになり，それに伴って先読みしながら指導が行えるようになりました．インターンシップでは，体操担当の客員教授の指導が非常に勉強になりました．実習後の話し合いの時は緊張感があり，厳しい部分もありましたが，振り返ると力がついていることを実感できました．

このプログラムで一番心に残っていることは，「子どもの成長を間近で見ることができた」ことです．インターンシップの際に，児童同士の喧嘩があった場面で，今までは「自分が良ければそれでいいんだ」と考えていた子が，その時に指導した後に「相手の気持ちを考えずに暴言をはいてごめんなさい．」と謝っていました．その後も少し反省しながら教室の活動に参加していましたが，それ以降何かをするときは自分の行動をよく考えたり，振り返るようにしていました．運動に関することではありませんが，「指導によって子どもはこんなに成長するんだ」と非常に感慨深かったです．

授業レポートより

インターンシップでは，毎回の実習後のまとめで客員教授からアドバイスをいただき，次の実習時にそれらを活かしていくことで，子どもたちへの活動内容の指示の仕方など，どのように話せば子どもたちが話を聞いてくれるのかを知ることができ，実践できるようになりました．このプログラムに参加するまでは，子どもと関わる事がこれまでなかったので，教育実習に向けて模擬授業をするときなどに，子どもがどのような反応をするのかなど，今までより深く考えることができるようになりました．

私はスポーツが苦手で，スポーツ指導に大きな不安があったため，このプログラムを受けました．最初は子どもたちと話すことでさえとても不安がありましたが，実習の回を重ねるごとに声かけの仕方がわかっていき，子どもたちも私の事を先生と呼んでくれてとても嬉しかったです．毎回の反省で改善点を見つけながら，次回につなげることができました．今年はコロナの影響で，子どもたちと関われる授業がほぼ全てなくなってしまったので，このプログラムが私にとって一番実践力を身につけることできた活動であったと思います．

3.　スポーツ指導者資格認定状況

表 2 は 2021 年度に資格認定を行った学生数で，計 30 名に対して基礎または上級の資格を認定しました．

2022年度のプログラムは，KYO2 クラブが再開し，京都市立藤ノ森小学校の運動教室と並行してインターンシップを展開します．この通信を手にしてプログラムに興味を持った学生のみなさん，プログラムの経験は学生生活そして教員生活に確実にプラスになるので，是非参加して下さい．

また，本プログラムについて質問等がある学生は，担当事務（教職キャリア高度化センター1F，スポーツ指導者養成オフィス）または，体育学科の小山（koyama@kyokyo-u.ac.jp）まで連絡をして下さい．

↑　本プログラムに関する情報が掲載されています．ぜひ，見て下さい

表2　2021年度における
スポーツ指導者資格（基礎・上級）認定者の内訳

基礎		上級	
英語領域	1	教育学	2
理科領域	1	発達障害教育	1
家庭領域	2	英語領域	1
体育領域	15	理科領域	2
		体育領域	5
計	19	計	11

注）数字は人数

教職キャリア高度化センター　スポーツ指導者養成部門
体育スポーツ指導力養成プログラム
（担当）小山　宏之